

【日 時】 令和7年10月9日(木) 午後2時～午後4時30分

【場 所】 多治見市役所駅北庁舎4階第1・第2会議室

【参加者】 最終頁名簿のとおり

【内 容】 1 教育長挨拶

2 多治見市行政評価報告(令和7年度前期分)

(0) 令和7年度前期の主なできごと

- (委員) トライサポーターが2名から4名に増えて良かった。効果のエピソードはあるか。
- (事務局) 「さわらび」に通っていた子が校内教育支援センターに通えることができるようになり、完全な出席扱いとなった。教室に入るのが難しい子が校内教育支援センターで学習することで不登校の未然防止に繋がった。
- (委員) 小泉小と陶都中の体育館に空調が設置されたが、他の小・中学校にも設置される予定はあるか。
- (事務局) 大変好評であるが、財政状況が厳しい状況であるため、一斉に全校設置を進めていくことは難しい。次回の市の総合計画で議論して進めていきたい。
- (委員) 熱中症等の健康管理にも関連しているため、重要な課題であると思う。

(1) 学力・体力を高める教育・保育の推進

- (委員) P7の幼保から体力づくりに取り組んでいることは大事である。幼保と連携して遊びの中で運動する経験ができるようにしているのは素晴らしい。P6の写真を見ると運動を楽しんでいる様子がよく分かる。運動が苦手な子ども、自分なりのやり方で体を動かすことができるよう、このような取り組みを続けてほしい。幼稚園で取り組んでいるいきいき運動遊びはどのようなものがあるか。
- (事務局) 本日の幼稚園の教育長訪問では、手作りでの「的」にボールを投げて、投げたことに対して先生がコメントすることにより、「できた」という実感をもってもらう。また、ラダーを置き、1回目は「けんぱ」で飛び、2回目は後ろ向きというようにバリエーションをつけて楽しんで動いてもらう。というものがある。
- (委員) 体力測定の結果で、全国の結果が下がっていたら、多治見市が全国より高くても成果としてよいかは疑問がある。また、P11の調査で「教科の勉強は好きですか」に肯定的に回答した割合は、昨年度と比較すると全体的に下がっている。この結果を受けてどのように改善していくのか。また、給食について、「残さず食べなさい」という指導ではなくなった今、給食の残量を指標としているのは何故か。
- (事務局) 体力についての全国平均の推移については、後期の評価委員会で報告する。「教科の勉強は好きですか」という調査は、教育基本計画の成果目標の項目であるため、継続して調査をしている。それ以外にも様々な設問やクロス集計があるため紹介する。多治見市の学力テストの結果は、小学校より中学校の方が全国平均と比較すると良い結果がでていいる。この結果を学習塾の通塾率を全国との比較でみたところ、中学生の通塾率が全国と比較して高いというわけではなかった。また、正答率をみると、通塾しているから正答率が上がるというわけではなく、塾の内容により違いがあった。全国学力・学習状況調査について

は、毎年同じ問題で、経年変化を調査しているものがある。その結果をみると全国的に下がっている傾向にある。全国的に学力は下がっており、勉強時間が少なくなっている。勉強時間については、多治見市の集計もあり、平日1時間以上勉強している子が、2年前、小学校62%で、全国よりも約5%高かったが、今年度は約55%で全国より約1%低い。小学校については、特に勉強時間が減っている。勉強時間と正答率の比較は、中学校では勉強時間が長いと学力が高い。小学校は、3時間までは勉強時間が長いと学力が高いが、3時間以上だと学力が下がる。主体的に勉強している子の正答率が高いことが分かっているため、主体的に学べる授業づくりを今後も継続していく必要があると認識している。

- (事務局) 給食の残量については教育基本計画の成果目標には入っておらず、毎日朝ご飯を食べる子の割合やアレルギー除去対応校・園の数値などを指標としている。食育においては、栄養のバランスや野菜の摂取がいかに大切かを伝えている。また、ベジチェックを実施して野菜の摂取量を数値化し興味をもってもらおうよう工夫している。
- (事務局) 体力テストの結果は、約12年前まで良くなかったから、小学校以前から楽しく体を動かすことが必要であるということで幼稚園、保育園で取り組んでいる。
- (委員) 情報活用能力の推進については、大人も学ぶ必要があると感じる。先生たちがAIを学ぶ場はあるか。
- (事務局) 夏休みAIの研修を希望制で実施している。個人情報漏洩や情報の信憑性に注意を払い様々なタイプのAIを使ってみる研修である。英語については、会話ができるAIがあり、英語が通じるかが分かるというもので注目している。子どもが使う前に、情報モラルに関する研修を教員に実施している。
- (委員) 大学では、AI対策として、ペーパー試験を復活したり、論文に関する対話試験を実施したりしているところもある。教育界全体の課題である。
- (委員) 個々の力に沿った力を育てていくには、AIを使用せず進めていかないと育めないと感じる。多治見市では、個々が学びたいとか面白いという力をつけることを大事にしている有難い。学力テストに理科が入っているのはなぜか。
- (事務局) 3年に1回理科のテストをやることになっている。
- (委員) 学力が下がっているという新聞報道があった。コロナの時期と関係があるのか。今後の結果も注視する必要がある。また、食育センターで給食を作る様子を子どもたちが直接見ることは大事であり、調理員と交流し、見聞きすることは重要である。
- (事務局) 学力テストにおいては、瞬間的に答えるものは正答率が高い。文章問題の回答率が低い。問題を理解する力が下がってきている。熟考して答えを出すということも必要と感じる。黒板、タブレットを上手く組み合わせて授業をする努力をしている。
- (委員) 学力の低下については、テストで問われている学力の質が、かつて測定されていたものとは違ってきていることが原因の可能性もある。食育の資料の写真、上から覗いて調理するのを見ている写真等、食育の様子がよく伝わるものであった。

(2) 社会性と豊かな心を育む教育の推進

(3) 家庭、学校・園、地域の連携の推進

- (委員) 郷土愛の子どもへの浸透率が気になる。土曜学習は、同じ子が参加しているのか。また、クラブ活動のてこいれが始まっていると感じる。地域クラブの現状について教えて欲しい。

- (事務局) 土曜学習については、保護者の送り迎えが必要であるため、参加できない子もいると思う。複数回、参加している子もいるが、新しく参加する子もいる。参加者の中には、陶器が好きだからといったように目的をもって参加している子が多い。アンケート結果をみると、90%以上の子が多治見を好きと回答している。中学校ボランティアは約10人程度参加していて、約7人程度が複数回参加しており、その他は新規のボランティア参加者である。
- (事務局) 今年度は、1年生向けに地域ごとのクラブを紹介し、自校でのクラブだけではなく、近隣のクラブも紹介した。また、教育委員会が地域クラブ・ジュニアクラブの一覧表を作成し、学校に配布した。その結果、小さい学校でのクラブ加入率が増加した。
- 今年度から、部活動・クラブ支援員を配置し、さらに情報力を高め、学校を通じて情報提供に努めている。また、部活動地域展開検討会議において関係機関で情報共有し、今後の在り方を議論している。
- (委員) クラブの保護者負担は切実である。吹奏楽は部員がいないと合奏ができない。先生は、深く関わっていないため、現状を把握していない。高校生の先輩がきてくれて教えたり一緒に演奏したりしている。保護者負担を減らす方法はないか。合同で活動できる場ができるように考えて欲しい。
- (事務局) 複数の学校で合同にしないと活動ができなくなっている。その前段階として、地域クラブ・ジュニアクラブの一覧表を作成し配布した。学校を超えたチーム編成を考える時期にきている。安定して動き出すには、数年はかかると思う。

(4) 多様な課題に応じた支援の推進

(5) 学びを支える教育環境の充実

- (委員) P27の特別支援教育を推進していることがよく分かる。幼保小中の連携が重要であり、親の不安を和らげるよう知識をもった方が対応できるとよい。特別支援コーディネーターの交流も重要な役割を果たしている。
- P29のたじっこクラブの定員で100人を超えているクラブが多くあることに驚いた。学童保育コーディネーターを配置し、教育委員会が関わっていることで、保護者は安心して働くことができている。昨年度は、この時期に待機児童がいたが、今年度は、待機が解消されている。しかし、年度当初は、待機児童が発生しているため、その対策がとられるとよい。
- (委員) クラブ活動のことにも関係するが、教員が過重労働にならないように教員を守る教育委員会であってほしい。教員不足を考えると教員が疲弊しないようにしてほしい。過剰に反応する親に強く言っても良いと思う。
- (事務局) 17時以降のクラブ活動を教員が業務として行っている例はなく、熱心にクラブ活動を行いたい教員が指導に当たっている場合はある。時間外勤務については、多治見市は東濃の各市と比較すると低い数値である。教員の働き改革に力をいれており、育児支援制度の利用が進んでいる。
- (委員) 全ての市町村で育児短時間休暇などが取りやすくなるとよい。部活動は本当に難しい問題である。
- 日本語支援が必要な児童生徒にも丁寧な対応をしていると感じる。

- (委員) 約 80 名が校内教育支援センターなどに居場所がある。また、移動さわりびで児童館を巡回し、相談に応じている。幼保も含めて一貫して支援していることは素晴らしい。
- (事務局) タブレット端末の共同調達について伺いたい。
- (委員) 県内でいくつかのグループに分けて、共同調達している。多治見市は今までと同様のタブレットを入れる予定である。iPad が 5 年前にくらべると増えている。共同調達によって、本体価格が約 7 万円から約 5 万円になった。一定程度、国からの補助がある。
- (委員) 特別支援教育コーディネーターは各学校 1 人か？
- (事務局) 複数のところもあるが基本的に 1 人である。
- (委員) 特性がある子をもつ親へのサポートが少しでも行われると、子どもにも良い影響があると思う。子どもに適した環境で学びができると授業もやりやすいと思う。
- (事務局) 子どもの特性を受け入れることができない親もいるため、親の希望どおり学校生活を始めるが、軌道修正しながら、学校全体で対応している。担当教員の資質向上にも努めている。
- (事務局) 多治見市には特別支援教育の指導教諭や特別支援教育の加配教諭がいて、学校の要請があれば、見識の高い教員が学校を超えて相談にのっている。教育委員会からのサポートも行っている。
- (委員) 学校に来ていない子は何人か。また、外国籍の児童生徒は増えているか。
- (事務局) 昨年度、全く学校に来ていない児童生徒は約 10 人である。どこかの機関と繋がりを持つよう家庭訪問等を行い働きかけている。
- (事務局) 日本語指導が必要な児童生徒は 53 人である。年々増えていたが昨年度から頭打ちとなっている。しかし、日本語の初期指導が必要な児童生徒は増えているため、指導時間数は増えている。
- (事務局) 児童生徒の人数は減少しているが、発達障害の児童生徒は増えている。親の理解が深まった。積極的に診断を受ける方が増えている。

4 意見交換

- (委員) 教員不足を心配しているため、教員の働き方改革は今後も進めてほしい。教員を守ってくれる教育委員会であって欲しい。
- (委員) P21 の連合生徒会に参加している生徒が良い表情で手を挙げている。このような子どもの姿を見ることができるとはうれしい。
- (委員) 本日の説明を聞き、学校現場での熱い思いを感じた。また、特性のある子どもを悪者にしないという話を聞き、その姿勢に感銘をうけた。その姿勢が、個々の才能を発揮する場を作っていると思う。
- (委員) 会話がある場があると良い気づきがある。そのような教育現場であってほしい。また、本日説明のあった内容を発信し、多治見市の教育が発展すると良い。
- (委員) 昨年からも進められている地産地消やビデオメッセージで生産者の方の声を聞くといった事が食育に繋がると思う。それをきっかけとして、総合的な学習をさらに深めたり、社会科で地域の産業を学んだりと発展していくと思う。
- P28 の日本語指導の必要な児童生徒への支援で、進路説明会において高校生の先輩から話を聞けるという機会があり、親しみを感じる雰囲気伝わります。

設置者が異なるため難しいとは思いますが、発達特性等がある生徒の情報が高校へ伝わって
いくと良いと思う。

5 その他

事務局連絡

● 多治見市教育行政評価委員会 委員等名簿（敬称略）

委員

名前	所属・役職	その他
武者 一弘	中部大学教授	委員長
安田 悦子	元笠原小学校校長	副委員長
中澤 香代	元教育委員	
三和 義幸	多治見西高校職員	
瀬古 梨絵子	令和5年度多治見市 PTA 連合会副会長	